(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2006-122425
(P2006-122425A)
(43)公開日　平成18年5月18日(2006.5.18)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
A63F 7/02 (2006.01)	A63F 7/02 316D	2C088

審査請求 未請求　請求項の数 12　ＯＬ　（全 27 頁）

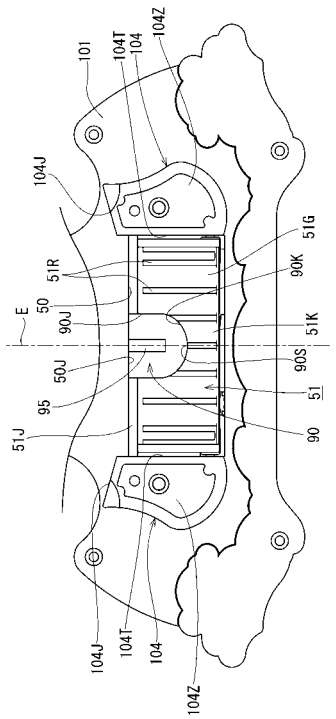
(21)出願番号　特願2004-315795 (P2004-315795)
(22)出願日　平成16年10月29日 (2004.10.29)

(71)出願人　599104196
株式会社サンセイアールアンドディ
愛知県名古屋市中区丸の内２丁目１１番１３号
(74)代理人　100112472
弁理士　松浦　弘
(72)発明者　伊東　秀城
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目１１番１３号　株式会社サンセイアールアンドディ内
(72)発明者　清原　賢二
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目１１番１３号　株式会社サンセイアールアンドディ内

Ｆターム(参考)　2C088 AA42　BA09　DA07　DA09　EB42

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【要約】
【課題】　ゲートの鉛直下方に開閉入球口を配置した遊技機において、ゲートを通過した遊技球が遊技球が開閉入球口に過剰に入球し難くすることが可能な遊技機の提供を目的とする。
【解決手段】　本実施形態のパチンコ遊技機１０によれば、特別図柄始動ゲート１７を通過して鉛直落下した遊技球は、大入賞口開閉扉５１に形成された扉通過路９０を通過するので、大入賞口５０に入球することはない。これにより、特別図柄始動ゲート１７を通過しかつ大入賞口５０に入球する遊技球をなくすことができ、大入賞口５０への遊技球の入球を従来の遊技機よりも抑えることができる。
【選択図】　図９



【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技球の通過により遊技の特典を付与するゲートと、
前記ゲートの下方に配置された開閉入球口と、
遊技の当たり時以外は前記開閉入球口を閉鎖状態とし、前記遊技の当たり時には前記開閉入球口を開放状態にすると共に落下する遊技球を受け止めて前記開閉入球口内に案内する駆動扉と、
前記開閉入球口の内部に設けられて、前記開閉入球口への遊技球の入球数を検出するための検出手段と、
前記開閉入球口が前記開放状態になってからその開閉入球口への遊技球の入球数が所定個数に達したか、若しくは、前記開閉入球口が前記開放状態になってから所定期間経過した場合に、前記開閉入球口を閉鎖状態にする扉駆動手段と、
前記開閉入球口への遊技球の入球数に応じて遊技の賞を付与する賞付与手段とを備えた遊技機において、
前記ゲートの鉛直下方に前記開閉入球口を配置すると共に、前記ゲートから鉛直落下した遊技球を前記開閉入球口に入球不能とするための入球抑制手段を備えたことを特徴とする遊技機。
【請求項２】
遊技球が前面を流下する遊技板を備え、
前記遊技板には、遊技球の落下方向を変更する複数の障害釘が植設され、前記ゲートと前記開閉入球口との間の部分は、前記障害釘が植設不能な構成であることを特徴とする請求項１に記載の遊技機。
【請求項３】
遊技球が前面を流下する遊技板を備え、
前記ゲートは、前記遊技板から前方に突出しかつ左右に並んだ１対の脚部と、それら１対の脚部の先端間を繋いだ連絡部材とから構成され、
前記開閉入球口は前記遊技板に取り付けられた役物装置のベース部の前面に開放した開口であり、
前記駆動扉は、前記開閉入球口の下辺に沿った回動軸を中心にして回動し、前記ベース部に対し平行でかつ略同一面となることで前記開閉入球口を前記閉鎖状態にする一方、前方に回動して前記ベース部に対し略直角となることで前記開閉入球口を前記開放状態にして、遊技球を前記開閉入球口内に案内可能となるように構成されたことを特徴とする請求項１又は２に記載の遊技機。
【請求項４】
前記入球抑制手段は、前記ゲートを通過する鉛直線を挟んで前記開閉入球口及び前記駆動扉を共に左右に２分割することにより、それら２分割された前記開閉入球口及び前記駆動扉の左側部分と右側部分との間に形成されて、遊技球を前記開閉入球口に入球させずに流下させるための中央通過路であることを特徴とする請求項１乃至３の何れかに記載の遊技機。
【請求項５】
前記入球抑制手段は、前記開閉入球口が前記開放状態の場合は、前記ゲートと前記開閉入球口との間を繋ぐ鉛直線上に位置して、前記ゲートから前記開閉入球口への遊技球の流下を規制する一方、前記開閉入球口が前記閉鎖状態の場合は、前記ゲートと前記開閉入球口との間を繋ぐ鉛直線上から後退して、前記ゲートから前記開閉入球口への遊技球の流下を許容する遮断駆動部であることを特徴とする請求項１乃至３の何れかに記載の遊技機。
【請求項６】
前記入球抑制手段は、前記駆動扉のうち前記ゲートを通過する鉛直線と交差する部分に形成されると共に、前記開閉入球口が開放状態になった場合に前記ゲートと鉛直方向で対向し、遊技球を通過させて前記駆動扉による前記開閉入球口への案内を回避させるための扉通過路であることを特徴とする請求項１乃至３の何れかに記載の遊技機。

【請求項７】
前記駆動扉により前記開閉入球口が閉鎖状態とされた場合に、遊技球が前記扉通過路を通って前記開閉入球口に入球することを防止する扉通過路用入球防止部を設けたことを特徴とする請求項６に記載の遊技機。
【請求項８】
前記扉通過路用入球防止部は、前記開閉入球口のうち前記駆動扉により前記開閉入球口が閉鎖状態とされた場合に前記扉通過路と対向する位置に設けられて、前記開閉入球口の縁部から前記開閉入球口の内側に向かって突出した入球防止突部であることを特徴とする請求項７に記載の遊技機。
【請求項９】
前記扉通過路用入球防止部は、前記駆動扉が前記開閉入球口を閉鎖状態とした場合に前記扉通過路の上方を覆うように前記駆動扉から起立した庇部であることを特徴とする請求項７に記載の遊技機。
【請求項１０】
前記ゲートと前記開閉入球口とは共通の役物装置に設けられ、
前記役物装置のうち、前記ゲートと前記開閉入球口との間を繋ぐ鉛直線上部分に合成樹脂部材を配置したことを特徴とする請求項１乃至９の何れかに記載の遊技機。
【請求項１１】
前記開閉入球口は、前記ゲートを通過しなかった遊技球が入球可能であることを特徴とする請求項１乃至１０の何れかに記載の遊技機。
【請求項１２】
前記遊技の特典は、図柄ゲームの開始であることを特徴とする請求項１乃至１１の何れかに記載の遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、遊技球の通過により遊技の特典を付与するゲートと、ゲートの下方に配置された開閉入球口と、遊技の当たり時以外は開閉入球口を閉鎖状態とし、遊技の当たり時には開閉入球口を開放状態にすると共に落下する遊技球を受け止めて開閉入球口内に案内する駆動扉とを備えた遊技機に関する。
【背景技術】
【０００２】
図２１に示す従来のこの種の遊技機では、ゲート１，１を遊技球が通過すると、始動入賞口２に備えた「普通電動役物３を開放するか否かの抽選」等の特典が付与される。通常は、遊技の趣向性を高めるために、遊技球がゲート１，１を通過し易いように構成されている。また、遊技が「大当たり」となると開閉入球口４が開放し、開閉入球口４への入球数に応じて、例えば、賞球が払い出されるようになっている（例えば、特許文献１参照）。
【特許文献１】特開２００２－３３１０８４号公報（段落［０００２］、図１）
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
ところが、上述した従来の遊技機において、例えば、開閉入球口４がゲート１の鉛直下方に配置された場合、開閉入球口４が開放状態となると、ゲート１を通過した遊技球の殆どが開閉入球口４に入球することになる。このため、ゲート１を遊技球が通過し易くすると、開閉入球口４に入球し過ぎることになり、過剰に賞球が払い出されてしまう。
【０００４】
この問題を解決するために、ゲート１を遊技球が通過し難い構成とすることも考えられるが、このような構成とすると、「普通電動役物３を開放するか否かの抽選」の発生頻度が低下して、遊技の趣向性が低下するという問題がある。

【０００５】
本発明は、上記事情に鑑みてなされたもので、ゲートの鉛直下方に開閉入球口を配置した遊技機において、ゲートを通過した遊技球が遊技球が開閉入球口に過剰に入球し難くすることが可能な遊技機の提供を目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記目的を達成するため、請求項１に係る遊技機は、遊技球の通過により遊技の特典を付与するゲートと、ゲートの下方に配置された開閉入球口と、遊技の当たり時以外は開閉入球口を閉鎖状態とし、遊技の当たり時には開閉入球口を開放状態にすると共に落下する遊技球を受け止めて開閉入球口内に案内する駆動扉と、開閉入球口の内部に設けられて、開閉入球口への遊技球の入球数を検出するための検出手段と、開閉入球口が開放状態になってからその開閉入球口への遊技球の入球数が所定個数に達したか、若しくは、開閉入球口が開放状態になってから所定期間経過した場合に、開閉入球口を閉鎖状態にする扉駆動手段と、開閉入球口への遊技球の入球数に応じて遊技の賞を付与する賞付与手段とを備えた遊技機において、ゲートの鉛直下方に開閉入球口を配置すると共に、ゲートから鉛直落下した遊技球を開閉入球口に入球不能とするための入球抑制手段を備えたところに特徴を有する。
【０００７】
請求項２の発明は、請求項１に記載の遊技機において、遊技球が前面を流下する遊技板を備え、遊技板には、遊技球の落下方向を変更する複数の障害釘が植設され、ゲートと開閉入球口との間の部分は、障害釘が植設不能な構成であるところに特徴を有する。
【０００８】
請求項３の発明は、請求項１又は２に記載の遊技機において、遊技球が前面を流下する遊技板を備え、ゲートは、遊技板から前方に突出しかつ左右に並んだ１対の脚部と、それら１対の脚部の先端間を繋いだ連絡部材とから構成され、開閉入球口は遊技板に取り付けられた役物装置のベース部の前面に開放した開口であり、駆動扉は、開閉入球口の下辺に沿った回動軸を中心にして回動し、ベース部に対し平行でかつ略同一面となることで開閉入球口を閉鎖状態にする一方、前方に回動してベース部に対し略直角となることで開閉入球口を開放状態にして、遊技球を開閉入球口内に案内可能となるように構成されたところに特徴を有する。
【０００９】
請求項４の発明は、請求項１乃至３の何れかに記載の遊技機において、入球抑制手段は、ゲートを通過する鉛直線を挟んで開閉入球口及び駆動扉を共に左右に２分割することにより、それら２分割された開閉入球口及び駆動扉の左側部分と右側部分との間に形成されて、遊技球を開閉入球口に入球させずに流下させるための中央通過路であるところに特徴を有する。
【００１０】
請求項５の発明は、請求項１乃至３の何れかに記載の遊技機において、入球抑制手段は、開閉入球口が開放状態の場合は、ゲートと開閉入球口との間を繋ぐ鉛直線上に位置して、ゲートから開閉入球口への遊技球の流下を規制する一方、開閉入球口が閉鎖状態の場合は、ゲートと開閉入球口との間を繋ぐ鉛直線上から後退して、ゲートから開閉入球口への遊技球の流下を許容する遮断駆動部であるところに特徴を有する。
【００１１】
請求項６の発明は、請求項１乃至３の何れかに記載の遊技機において、入球抑制手段は、駆動扉のうちゲートを通過する鉛直線と交差する部分に形成されると共に、開閉入球口が開放状態になった場合にゲートと鉛直方向で対向し、遊技球を通過させて駆動扉による開閉入球口への案内を回避させるための扉通過路であるところに特徴を有する。
【００１２】
請求項７の発明は、請求項６に記載の遊技機において、駆動扉により開閉入球口が閉鎖状態とされた場合に、遊技球が扉通過路を通って開閉入球口に入球することを防止する扉

通過路用入球防止部を設けたところに特徴を有する。

【００１３】

請求項８の発明は、請求項７に記載の遊技機において、扉通過路用入球防止部は、開閉入球口のうち駆動扉により開閉入球口が閉鎖状態とされた場合に扉通過路と対向する位置に設けられて、開閉入球口の縁部から開閉入球口の内側に向かって突出した入球防止突部であるところに特徴を有する。

【００１４】

請求項９の発明は、請求項７に記載の遊技機において、扉通過路用入球防止部は、駆動扉が開閉入球口を閉鎖状態とした場合に扉通過路の上方を覆うように駆動扉から起立した庇部であるところに特徴を有する。

【００１５】

請求項１０の発明は、請求項１乃至９の何れかに記載の遊技機において、ゲートと開閉入球口とは共通の役物装置に設けられ、役物装置のうち、ゲートと開閉入球口との間を繋ぐ鉛直線上部分に合成樹脂部材を配置したところに特徴を有する。

【００１６】

請求項１１の発明は、請求項１乃至１０の何れかに記載の遊技機において、開閉入球口は、ゲートを通過しなかった遊技球が入球可能であるところに特徴を有する。

請求項１２の発明は、請求項１乃至１１の何れかに記載の遊技機において、遊技の特典は、図柄ゲームの開始であるところに特徴を有する。

【発明の効果】

【００１７】

［請求項１の発明］

請求項１の遊技機は、入球抑制手段を備えたことにより、開閉入球口が開放状態のときにゲートから鉛直落下した遊技球が開閉入球口に入球することが困難となる。従って、ゲートを通過しかつ開閉入球口に入球する遊技球の数を、従来よりも減らす或いはなくすことができる。これにより、遊技球がゲートを通過し易い構成としつつ、ゲートを通過した遊技球の開閉入球口への入球を抑えることができる。

【００１８】

［請求項２の発明］

請求項２の構成では、ゲートから鉛直落下した遊技球は、障害釘に依らず、入球抑制手段によって開閉入球口に入球困難とすることができる。

【００１９】

［請求項３の発明］

請求項３の発明によれば、遊技板の前面を流下する遊技球は、駆動扉に受け止められると、駆動扉に案内されて遊技板の前面から開閉入球口へ入球する。

【００２０】

［請求項４の発明］

請求項４の発明によれば、開閉入球口及び駆動扉は、中央通過路を挟んで左右に２分割されている。そして、中央通過路は、ゲートを通過する鉛直線上に設けられているので、ゲートから鉛直落下した遊技球は中央通過路上を流下する。これにより、開閉入球口が開放状態の場合でも、ゲートから鉛直落下した遊技球を開閉入球口に入球させずに、開閉入球口の下方へ流下させることができる。

【００２１】

［請求項５の発明］

請求項５の発明によれば、開閉入球口が開放状態のときには、ゲートから鉛直下方に流下した遊技球が、遮断駆動部に接触して流下方向が変えられる。これにより、ゲートから鉛直落下した遊技球を開閉入球口に入球させずに、開閉入球口の下方へ流下させることができる。また、開閉入球口が閉鎖状態のときには、遮断駆動部は、ゲートと開閉入球口とを繋ぐ鉛直線上から後退するので、ゲートから鉛直下方に流下した遊技球が遮断駆動部と接触することはなく、遊技球はそのまま鉛直下方に流下する。これにより、開閉入球口が

開放状態のときと閉鎖状態のときとでゲートを通過した後の遊技球の流下経路を異ならせることができる。

【００２２】

［請求項６の発明］

請求項６の発明によれば、開閉入球口が開放状態のときにゲートから鉛直下方に流下した遊技球は、駆動扉に受け止められることなく、駆動扉に形成された扉通過路を通って開閉入球口の下方へ流下する。これにより、ゲートから鉛直落下した遊技球を開閉入球口に入球させずに、開閉入球口の下方へ流下させることができる。

【００２３】

［請求項７の発明］

請求項７の発明によれば、開閉入球口が閉鎖状態の場合に、開閉入球口に遊技球が入球することを確実に防止できる。

【００２４】

［請求項８の発明］

請求項８の発明によれば、開閉入球口が閉鎖状態のときに扉通過路に向かって転動した遊技球は、入球防止突部に衝突するので、遊技球が扉通過路を通って開閉入球口に入球することが防止される。

【００２５】

［請求項９の発明］

請求項９の発明によれば、入球口が閉鎖状態のときにゲートから鉛直下方に流下した遊技球は、扉通過路の上方を覆った庇部に衝突することで扉通過路の前側を通過し難くなるので、遊技球が扉通過路を通って開閉入球口に入球することが困難となる。

【００２６】

［請求項１０の発明］

請求項１０の構成では、合成樹脂部材を配置した部分、即ち、ゲートと開閉入球口とを繋ぐ鉛直線上部分に、ゲートを通過した遊技球を開閉入球口へ入球不能とするための障害釘を配設することができない。これは、障害釘を打ち付けると、合成樹脂部材が破損して障害釘を固定配置できないからである。そして、ゲートを通過して役物装置上を鉛直落下する遊技球は、障害釘に依らず、入球抑制手段によって開閉入球口へ入球困難とされるので、入球抑制手段の存在意義がより高まる。

【００２７】

［請求項１１の発明］

請求項１１の発明によれば、遊技の当たり時には開閉入球口が開放すると共に、ゲートを通過しなかった遊技球が開閉入球口へ入球可能となるので、遊技球の流下経路に興味を抱かせることができる。

【００２８】

［請求項１２の発明］

請求項１２の発明によれば、ゲートへの遊技球の通過により、図柄ゲームを楽しむことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００２９】

［第１実施形態］

以下、本発明を適用したパチンコ遊技機に係る第１実施形態を、図１～図１４に基づいて説明する。図２に示すように、本実施形態のパチンコ遊技機１０には、例えば、木製の遊技板１１が備えられている。遊技板１１には、ガイドレール１２で囲まれたほぼ円形の遊技領域Ｒ１が形成され、遊技領域Ｒ１の中央部に、表示装置１３が備えられている。遊技領域Ｒ１のうち表示装置１３の下方には、特別図柄始動ゲート１７（本発明の「ゲート」に相当する）、特別図柄始動入賞口４０、大入賞口５０（本発明の「開閉入球口」に相当する）及びアウト口１６が、上から順に間隔を開けて並べて設けられている。また、遊技領域Ｒ１のうち表示装置１３を挟んだ左右の両側には、風車１９，１９が設けられ、そ

れら風車１９，１９よりも外側に、ガイドレール１２に沿って円弧状をなしたサイドランプ２２，２２が備えられている。サイドランプ２２，２２の下方には、ガイドレール１２に沿って上側サイド入賞口２０及び下側サイド入賞口２１が設けられている。また、上側サイド入賞口２１，２１と特別図柄始動ゲート１７との間には、普通図柄始動ゲート１８，１８が配設されている。さらに、遊技領域Ｒ１全体に亘って、複数の障害釘が起立している。

【００３０】

図１に示すように、パチンコ遊技機１０のうち、遊技板１１より上方には、遊技板１１の前面側に張り出した装飾ランプ３０が設けられている。また、遊技板１１より下方には、上皿２７Ａ及び下皿２７Ｂが上下２段にして設けられている。そして、下皿２７Ｂの右端部に設けた操作ノブ２８を操作することで、上皿２７Ａに収容された遊技球が遊技板１１に向けて弾き出される。また、上皿２７Ａに設けたボタン２９を押せば、上皿２７Ａから下皿２７Ｂに遊技球が移動して収容される。さらに、上皿２７Ａを挟んだ両側には、１対のスピーカ９９，９９が設けられている。

【００３１】

次に所要の各部位について説明する。

上側サイド入賞口２０及び下側サイド入賞口２１は、共に遊技球が１つ入賞可能な開口幅をなして上方に開放されている。これら各サイド入賞口２０，２１に入賞した遊技球は、遊技板１１の後側に回収される。また、各サイド入賞口２０，２１に遊技球が入賞すると、１回（１個）の入賞につき、例えば、１０個の賞球が上皿２７Ａに払い出される。

【００３２】

普通図柄始動ゲート１８は、上下に開放した門形構造をなし、遊技球が潜って通過可能となっている。普通図柄始動ゲート１８の下端開口の真下位置には、遊技板１１から直角に起立した傾斜片２５が備えられている。傾斜片２５の上面は、特別図柄始動入賞口４０に向かって下るように傾斜している。これにより、普通図柄始動ゲート１８を通過した遊技球は、傾斜片２５の上面に落下し、傾斜片２５に案内されて斜め下方（詳細には、大入賞口１５）に向かって流下する。

【００３３】

表示装置１３は、遊技板１１に形成した貫通孔（図示せず）に、装飾枠２３を嵌め込み、その装飾枠２３の奥部に、ＴＦＴ－ＬＣＤモジュールからなる表示器３４を備えてなる。

【００３４】

表示器３４には、図１に示すように３つの特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃが横並びに表示される。各特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃは、「０」～「９」の１０種類の数字図柄で構成されており、通常は、各特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃごとに何れか１種類の数字図柄が停止表示されている。そして、後述する特別図柄始動ゲート１７又は特別図柄始動入賞口４０に遊技球が入賞すると、各特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃが、上下方向にスクロールして変動表示される。なお、特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃの変動表示が、本発明の「図柄ゲーム」に相当し、変動表示が開始されることが、本発明の「遊技の特典」に相当する。

【００３５】

各特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃがスクロールしてから所定時間後に、例えば、左特別図柄１３Ａ、右特別図柄１３Ｃ、中特別図柄１３Ｂの順で、スクロールが停止して所定の図柄が停止表示される。ここで、例えば、停止表示された特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃの全部が同じ数字になった場合（所謂、ぞろ目になった場合）には、所謂「大当たり遊技」が実行され、後述する大入賞口５０に多くの遊技球が入賞可能となる。

【００３６】

表示装置１３のうち、装飾枠２３の上辺部分には、普通図柄表示部２４が設けられている。普通図柄表示部２４には、図２に示すように２つの普通図柄２４Ａ，２４Ｂが表示される。普通図柄２４Ａ，２４Ｂは、「０」～「９」の数字図柄で構成され、普通図柄始動

ゲート１８内に設けた普通図柄始動スイッチが遊技球の通過を検出したときに当否判定して、例えば、「０」～「９」までの数字を所定期間に亘って変動表示した後、所定の数字を確定表示する。確定表示された普通図柄２４Ａ，２４Ｂが、例えば、奇数のぞろ目の場合に、後述する特別図柄始動入賞口４０に遊技球が入球可能な「小当たり遊技」が行われる。なお、普通図柄表示部２４で表示する図柄は、数字に限るものではなく、アルファベットや記号等でもよい。

【００３７】

さて、後に詳説する特別図柄始動ゲート１７、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０は、図３に示す役物装置１００に一体に備えられている。役物装置１００は、遊技板１１に貫通形成された取付孔１１Ａ（図４を参照）に遊技板１１の前面側から挿入されて、ベース部１０１の周縁部を遊技板１１の前面に、例えば、螺子等で固定してある。ベース部１０１は平板状をなし前面が遊技板１１の前面と平行な平坦面をなす。そして、このベース部１０１により、遊技板１１の取付孔１１Ａが塞がれて、遊技板１１の前面の一部が構成されている。ベース部１０１の前面には、特別図柄始動ゲート１７が設けられ、ベース部１０１のうち、特別図柄始動ゲート１７の下方部分に、ベース部１０１を貫通した特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０が上下に並んで形成されている。

【００３８】

ベース部１０１のうち、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０を挟んだ両側には、それぞれ１対の障害壁１０３，１０４が形成されている。障害壁１０３，１０４は、ベース部１０１の前面から膨出している（図４を参照）。障害壁１０３，１０４のうち、各入賞口４０，５０を挟んで対向した対向面１０３Ｔ，１０４Ｔは、遊技板１１面に対して直角でかつ各入賞口４０，５０の側辺に沿った平坦面をなし、前面１０３Ｚ，１０４Ｚは遊技板１１面と平行な平坦面をなしている（図５を参照）。また、特別図柄始動入賞口４０の両側部に設けられた障害壁１０３の上面１０３Ｊは、特別図柄始動入賞口４０に向かって下るように傾斜しており、大入賞口５０の両側部に設けられた障害壁１０４の上面１０４Ｊは、大入賞口５０に向かって下るように傾斜している。なお、遊技板１１の前面側は図示しないガラス板によって覆われている。遊技板１１（ベース板１０１）の前面とガラス板との間の距離は、遊技球の直径（例えば、１１ｍｍ）よりも若干大きくなっている。また、障害壁１０３，１０４の前面１０３Ｚ，１０４Ｚとガラス板との間の隙間は、遊技球の直径よりも小さくなっている。これにより、遊技球は、ベース板１０１のうち障害壁１０３，１０４が形成されていない部分を通って流下し、障害壁１０３，１０４の前面１０３Ｚ，１０４Ｚよりも前側を通過することはない。

【００３９】

ところで、本実施形態のベース部１０１は、合成樹脂製であるため、遊技板１１のうち、役物装置１００が取り付けられた部分の前面には、障害釘が植設されていない。従って、特別図柄始動ゲート１７と特別図柄始動入賞口４０との間部分、及び特別図柄始動入賞口４０と大入賞口５０との間部分を通過する遊技球は、障害釘に衝突して流下方向が変化することがない。ここで、障害釘が設けられていない理由は、遊技板１１のうち役物装置１００が取り付けられた部分には、取付孔１１Ａが形成されて障害釘を植設可能な木製の遊技板１１が無く、役物装置１００に直接障害釘を打ち付けると合成樹脂製のベース部１０１が割れてしまうため、障害釘をベース部１０１に固定できないからである。

【００４０】

ベース部１０１の裏面側には、裏側ユニット１０２が備えられている。裏側ユニット１０２には、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球や各入賞口４０，５０に入球した遊技球を検出する遊技球センサ６２，７５，８５、特別図柄始動入賞口４０に入球した遊技球を遊技板１１の裏面側に案内する回収通路７６、後述する始動口開閉扉４１及び大入賞口開閉扉５１を開閉動作させる為のソレノイド４３，５３等が備えられている。

【００４１】

まず、特別図柄始動ゲート１７について説明する。特別図柄始動ゲート１７は、上下に開放した門形構造をなす。詳細には、特別図柄始動ゲート１７は、遊技板１１（ベース部

１０１）から直角に起立した１対の側壁部６０，６０（本発明の「脚部」に相当する）を備え、これら側壁部６０，６０の先端を装飾板６１（本発明の「連結部材」に相当する）で連結してなる。１対の側壁部６０，６０は、遊技球の直径よりも若干大きな間隔を空けて左右に配置され、装飾板６１は、遊技板１１（ベース部１０１）の前面から遊技球の直径よりも大きな間隔を空けた位置に配置されている。そして、特別図柄始動ゲート１７の上端開口１７Ｊと下端開口１７Ｋとが同一の開口広さで、鉛直方向で並んでいる。

【００４２】

特別図柄始動ゲート１７の上下方向における中間位置には、遊技球センサ６２が備えられている。遊技球センサ６２は、長板状をなし、例えば、ベース部１０１の裏側からベース部１０１に貫通形成された差込孔１０１Ｓに挿入されて、一部が特別図柄始動ゲート１７の内側に配置されている（図５を参照）。遊技球センサ６２のうち、特別図柄始動ゲート１７の内側に配置された部分には、鉛直方向に貫通した略円形開口６３が形成されている。略円形開口６３は、遊技球が丁度１つ通過可能な開口広さを有する。遊技球は特別図柄始動ゲート１７の上端開口１７Ｊから入球し、この略円形開口６３を通過したときに遊技球センサ６２に検出されて、下端開口１７Ｋから鉛直落下する。

【００４３】

なお、図５に示すように、特別図柄始動ゲート１７を構成する装飾板６１の上縁部分は、特別図柄始動ゲート１７の内側に向かって下るようにテーパー形状をなす。これにより、装飾板６１の上縁部に落下した遊技球が、特別図柄始動ゲート１７に入球し易くなっている。また、図３に示すように、側壁部６０，６０の内側面６０Ｔ，６０Ｔのうち、遊技球センサ６２よりも上側部分は、凹凸形状をなしている。この凹凸形状により特別図柄始動ゲート１７に入球した遊技球の速度を落として、遊技球センサ６２が遊技球を検出し損なうことがないようにしている。以上が特別図柄始動ゲート１７の説明である。

【００４４】

図３に示すように、ベース部１０１のうち、特別図柄始動ゲート１７の鉛直下方位置には特別図柄始動入賞口４０が設けられている。特別図柄始動入賞口４０は、横長の矩形状をなす。特別図柄始動入賞口４０の横幅は、特別図柄始動ゲート１７の下端開口よりも大きくなっている。そして、図３に示すように、特別図柄始動入賞口４０の横幅方向（図３における左右方向）における中央部を通る鉛直線Ｅ上に、特別図柄始動ゲート１７が配置されている。遊技板１１の前面を流下し特別図柄始動入賞口４０に入球した遊技球は、遊技板１１の裏面側へ導かれる。また、特別図柄始動入賞口４０に遊技球が入球すると、１回（１個）の入球につき、例えば、４個の賞球が払い出される。

【００４５】

図５に示すように、特別図柄始動入賞口４０の奥側には、遊技球が転動可能な球受入部屋７０が形成されている。球受入部屋７０は、特別図柄始動入賞口４０よりも若干幅狭でかつ、遊技球の直径にほぼ等しい奥行きを有する。球受入部屋７０のうち、特別図柄始動入賞口４０に対面した奥壁７１の一側部（図３における右端部分）には、遊技球が通過可能な球受入口７２が貫通形成されている。球受入口７２は、遊技球が丁度１つ通過可能な大きさのアーチ形状をなす。ここで、球受入部屋７０の底面７０Ｓは、球受入口７２に向かって下るように傾斜している。具体的には、底面７０Ｓは、左端部分から右端部分に向かって下っておりかつ、右端部分は、奥側に向かって下っている（図５を参照）。これにより、特別図柄始動入賞口４０から球受入部屋７０に転入した遊技球が、スムーズに球受入口７２に案内されるようになっている。

【００４６】

球受入口７２は、球受入部屋７０よりもさらに奥側に延びた奥側部屋７３に連通している。奥側部屋７３の底面７３Ｓは球受入部屋７０の底面７０Ｓと面一であり、奥側に向かって下るように傾斜している。奥側部屋７３の下方には、遊技球センサ７５が備えられている。遊技球センサ７５には、上下方向に貫通した球検出口７４が形成されている。球検出口７４は、遊技球の直径よりも若干大きい直径の円形孔である。

【００４７】

奥側部屋７３の天井部分には、奥側に向かうに従って下方に張り出した三角突片７７が形成されている。球受入部屋７０から奥側部屋７３に勢いよく転入した遊技球は、この三角突片７７に接触することで転動方向を変えられ、球検出口７４から落下することになる。

【００４８】

ところで、特別図柄始動入賞口４０に入球した遊技球は、遊技球センサ７５により検出される。即ち、遊技球は、特別図柄始動入賞口４０を通過したときに検出されるのではなく、特別図柄始動入賞口４０を通過し、球受入部屋７０、奥側部屋７３を経て球検出口７４を通過したときに検出される。これにより、遊技球が特別図柄始動入賞口４０を通過してから遊技球センサ７５に検出されるまでには、若干の時間差が生じる。なお、球検出口７４を通過した遊技球は、遊技板１１の裏面側（詳細には、裏側ユニット１０２）に備えられた回収通路７６によって、パチンコホールに回収される。

【００４９】

さて、特別図柄始動入賞口４０には、始動口開閉扉４１が備えられている。始動口開閉扉４１は、特別図柄始動入賞口４０とほぼ同じ大きさの矩形横長の帯板形状をなし、下辺部４１Ｋを特別図柄始動入賞口４０の両側辺の間に水平に差し渡された回動軸４２によって軸支されている（図７を参照）。これにより、始動口開閉扉４１は、役物装置１００のベース部１０１に対して直交する面内で回動可能となっている。

【００５０】

始動口開閉扉４１は、常には、ベース部１０１の前面に平行（鉛直方向）になっており（図５及び図７の状態）、特別図柄始動入賞口４０に遊技球が入球できないように、特別図柄始動入賞口４０を閉鎖している。このとき、始動口開閉扉４１（詳細には、外面４１Ｇ）は、ベース部１０１の前面と略同一面となっている。普通図柄始動ゲート１８を遊技球が通過して、普通図柄２４Ａ，２４Ｂが、例えば奇数のぞろ目となると、「小当たり遊技」が開始され、遊技板１１の後側に備えられたソレノイド４３によって、始動口開閉扉４１が所定期間（例えば、０．４秒）に亘って前側に倒れる（図３，図６及び図８の状態）。これにより、特別図柄始動入賞口４０が前方に開放し、前側に倒れた始動口開閉扉４１を案内にして遊技球が特別図柄始動入賞口４０に入球可能となる。このとき、始動口開閉扉４１は、ベース部１０１に対し略直角となる。

【００５１】

図５に示すように、始動口開閉扉４１の内面４１Ｎは平坦面となっている。内面４１Ｎの両側部には、側壁部４９が形成されている。側壁部４９は、始動口開閉扉４１の内面４１Ｎから起立して、始動口開閉扉４１の上辺４１Ｊから下辺４１Ｋに向かうに従って高くなる（内面４１Ｎから離れる）ように構成されている。この側壁部４９により、始動口開閉扉４１に受け止められた遊技球が、始動口開閉扉４１の側方に落下することが防止されている。

【００５２】

図７に示すように、側壁部４９のうち回動軸４２よりも後側部分には、ボス部４６が一体形成されている。ボス部４６は、始動口開閉扉４１の外側（図７における紙面手前側）に向かって突出している。また、側壁部４９の上縁部４９Ｊは、始動口開閉扉４１の内面４１Ｎに向かって下るようにテーパー形状をなしている。

【００５３】

始動口開閉扉４１の外面４１Ｇには、始動口開閉扉４１の上辺４１Ｊと下辺４１Ｋとを繋ぐように複数のリブ４１Ｒが形成されている（図５を参照）。また、図３に示すように外面４１Ｇの両側部には、ストッパ部４８が形成されている。ストッパ部４８は、始動口開閉扉４１の下辺４１Ｋ寄り部分に始動口開閉扉４１の外面４１Ｇから段付き状に起立した段差部４８Ｄを備え、この段差部４８Ｄから始動口開閉扉４１の上辺４１Ｊに向かうに従って始動口開閉扉４１の外面４１Ｇに近づくように傾斜している（図５を参照）。そして、始動口開閉扉４１の前側への回動角度が所定角度となったときに、ストッパ部４８の段差部４８Ｄが役物装置１００の表面（詳細には、ベース部１０１の前面）に当接して、

始動口開閉扉４１がそれ以上前側に倒れないようになっている。本実施形態では、始動口開閉扉４１が特別図柄始動入賞口４０を閉鎖した状態（図５及び図７の状態）から前側に約７５°回動したときに、段差部４８Ｄがベース部１０１の前面に当接する（図６及び図８の状態）ように構成されている。これにより、特別図柄始動入賞口４０が開放状態となると、始動口開閉扉４１の内面４１Ｎが特別図柄始動入賞口４０に向かって約１５°の角度で下るように傾斜する。従って、始動口開閉扉４１に受け止められた遊技球は、始動口開閉扉４１の内面４１Ｎの傾斜によってスムーズに特別図柄始動入賞口４０に案内される。

【００５４】

なお、始動口開閉扉４１が前側に約７５°倒れたときには、始動口開閉扉４１の上辺４１Ｊが障害壁１０３の前面１０３Ｚとほぼ面一となる（図６を参照）。このとき、始動口開閉扉４１の上辺４１Ｊと、遊技板１１の前面を覆うガラス板（図示せず）との間の隙間は、遊技球の直径よりも小さくなるので、始動口開閉扉４１上に落下した遊技球が、始動口開閉扉４１の前側（上辺４１Ｊ側）から下方に落下することが防がれる。また、図３に示すように、前側に倒れた始動口開閉扉４１は障害壁１０３，１０３によって左右から挟まれているので、始動口開閉扉４１上に落下した遊技球が、始動口開閉扉４１の側部から落下することも防止されている。従って、始動口開閉扉４１上に落下した遊技球は、確実に特別図柄始動入賞口４０に入球する。

【００５５】

ここで、図７及び図８に示すように、始動口開閉扉４１は略Ｌ字形状の屈曲アーム４４によってソレノイド４３に連結されている。具体的には、屈曲アーム４４の一端部４４Ａは、ソレノイド４３の軸心部分に備えられたシャフト４５の先端部に接続され、他端部４４Ｂは、始動口開閉扉４１に形成されたボス部４６に連結されている。また、屈曲アーム４４の屈曲部分には、軸部４４Ｊが設けられ、屈曲アーム４４は、この軸部４４Ｊを中心として回動可能となっている。

【００５６】

具体的には、ソレノイド４３が励磁され、シャフト４５がソレノイド４３側（図７における右側）に直動すると、屈曲アーム４４が軸部４４Ｊを中心にして図７における時計回り方向に回動し、屈曲アーム４４の一端部４４Ａが上方に移動する。すると、始動口開閉扉４１が、回動軸４２を中心として図７における反時計回り方向に回動して、始動口開閉扉４１が役物装置１００のベース部１０１に対し前側に倒され、ベース部１０１に対し略直角状態とすることで特別図柄始動入賞口４０が開放状態となる（図８の状態）。

【００５７】

一方、ソレノイド４３が消磁され、シャフト４５が圧縮コイルバネ４７の付勢力によってソレノイド４３から突出するように前方（図８における左側）へ直動すると、屈曲アーム４４が軸部４４Ｊを中心にして図８における反時計回り方向に回動し、屈曲アーム４４の一端部４４Ａが、下方に移動する。すると、始動口開閉扉４１が回動軸４２を中心として図８における時計回りに回動して、始動口開閉扉４１がベース部１０１に平行でかつ外面４１Ｇがベース部１０１の前面と略同一面となるように起立し、特別図柄始動入賞口４０が閉鎖状態となる（図７の状態）。以上が、特別図柄始動入賞口４０及び始動口開閉扉４１の説明である。

【００５８】

さて、特別図柄始動入賞口４０の下方位置には、本発明の「開閉入球口」に相当する大入賞口５０が形成されている。大入賞口５０は、特別図柄始動入賞口４０と同様に、横長の矩形状をなしている。大入賞口５０の横幅は、特別図柄始動ゲート１７の下端開口及び特別図柄始動入賞口４０の横幅よりも大きくなっている。そして、図３に示すように、大入賞口５０の横幅方向（図３の左右方向）における中央部を通る鉛直線Ｅ上に、特別図柄始動ゲート１７が配置されている。遊技板１１の前面を流下し大入賞口５０に入球した遊技球は、遊技板１１の裏面側へ導かれる。大入賞口５０に遊技球が入球すると、１回（１個）の入球につき、例えば１５個の賞球が払い出される。なお、この賞球が、本発明にお

ける「遊技の賞」に相当し、賞球を払い出す賞球払出装置（図示せず）が、本発明の「賞付与手段」に相当する。

【００５９】

大入賞口５０の奥側には、遊技球が転動可能な球受入部屋８０が形成されている。球受入部屋８０は、大入賞口５０よりも若干幅狭でかつ、遊技球の直径とほぼ等しい奥行きを有する。

【００６０】

図３に示すように、球受入部屋８０の両側壁８６，８６には、ストッパ突条５８が形成されている。ストッパ突条５８は、両側壁部８６，８６から外側（図３における左右方向）に突出して、パチンコ遊技機１０の前後方向に延びている。このストッパ突条５８により、後述する大入賞口開閉扉５１の回動角度が制限されている。

【００６１】

球受入部屋８０のうち、大入賞口５０に対面した奥壁８１の一側部（図３における右端部分）には、遊技球が通過可能な球受入口８２が貫通形成されている。球受入口８２は、遊技球が丁度１つ通過可能な大きさのアーチ形状をなす。ここで、球受入部屋８０の底面８０Ｓは、球受入口８２に向かって下るように傾斜している。具体的には、底面８０Ｓは、左端部分から右端部分に向かって下っておりかつ、右端部分は、奥側に向かって下っている。これにより、大入賞口５０から球受入部屋８０に転入した遊技球が、スムーズに球受入口８２に案内されるようになっている（図５を参照）。なお、球受入部屋８０の奥壁８１と両側壁８６，８６との間にはリブ８８，８８が形成されている（図３を参照）。これらリブ８８，８８は、球受入部屋８０の内部に張り出し、側壁８６から離れるに従って奥壁８１に近づくように傾斜している。

【００６２】

球受入口８２は、球受入部屋８０よりもさらに奥側に延びた奥側部屋８３に連通している。奥側部屋８３の底面８３Ｓは、球受入部屋８０の底面８０Ｓの右端部分と面一になっており、奥側に向かって下っている。奥側部屋８３の下方には、遊技球センサ８５（本発明の「検出手段」に相当する）が備えられている。遊技球センサ８５は、上下方向に貫通した球検出口８４を備える。球検出口８４は、遊技球の直径よりも大きい直径の円形孔である。また、奥側部屋８３の天井部分には、奥側に向かうに従って下方に張り出した三角突片８７が形成されている。球受入部屋８０から奥側部屋８３に勢いよく転入した遊技球は、この三角突片８７に接触することで、転動方向を変えられ球検出口８４から落下することになる。なお、球検出口８４を通過した遊技球は、遊技板１１の裏面側に備えられた図示しない回収通路を通ってパチンコホールに回収される。

【００６３】

大入賞口５０に入球した遊技球は、遊技球センサ８５により検出される。即ち、遊技球は、大入賞口５０を通過したときに検出されるのではなく、大入賞口５０を通過し、球受入部屋８０、奥側部屋８３を経て球検出口８４を通過したときに検出される。これにより、遊技球が大入賞口５０を通過してから遊技球センサ８５に検出されるまでには、若干の時間差が生じる。

【００６４】

さて、大入賞口５０には、本発明の「駆動扉」に相当する大入賞口開閉扉５１が備えられている。大入賞口開閉扉５１は、大入賞口５０の開口に対応した大きさの横長の帯板形状をなし、下辺部５１Ｋを大入賞口５０の両側辺の間に差し渡された回動軸５２によって軸支されている。これにより、大入賞口開閉扉５１は、遊技板１１面に対して直交する面内で回動可能となっている。

【００６５】

大入賞口開閉扉５１は、常には、役物装置１００のベース部１０１に平行（鉛直方向）に起立して大入賞口５０に遊技球が入球できないように、大入賞口５０を閉鎖状態（図５及び図７の状態）とする。このとき、大入賞口開閉扉５１（詳細には、外面５１Ｇ）は、ベース部１０１の前面と略同一面となっている。遊技が大当たり状態となると（特別図柄

１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃがぞろ目となると）、大入賞口開閉扉５１が遊技板１１の後側に備えられたソレノイド５３（本発明の「扉駆動手段」に相当する）によって所定期間に亘ってベース部１０１の前側に倒される。これにより、大入賞口５０が開放状態（図３，図６及び図８の状態）となり、大入賞口開閉扉５１を案内にして大入賞口５０に遊技球が入球可能な所謂、「大当たり遊技」が実行される。そして、大入賞口５０の開放時間が２９．５秒に達したか、又は、大入賞口５０への入球数が所定個数（例えば、９個）となったか、の何れかの条件が先に満たされた場合に、大入賞口開閉扉５１が駆動して大入賞口５０を閉鎖状態とする。なお、大入賞口５０が開放してから閉鎖するまでの間を「ラウンド」と称すると、「大当たり遊技」は、最大で１５ラウンドまで行われる。

【００６６】

図５に示すように、大入賞口開閉扉５１の外面５１Ｇには、上辺５１Ｊと下辺５１Ｋとを繋ぐように、複数のリブ５１Ｒが平行に並んで形成されている。これに対し、大入賞口開閉扉５１の内面５１Ｎは平坦面をなす。大入賞口開閉扉５１の内面５１Ｎの両側部には、側壁部５９が備えられている。側壁部５９は、大入賞口開閉扉５１の内面５１Ｎから起立して、大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊから下辺５１Ｋに向かうに従って高くなる（内面５１Ｎから離れる）ようにテーパー形状をなしている。この側壁部５９により、大入賞口開閉扉５１上に落下した遊技球が、大入賞口開閉扉５１の両側部から下方に落下することが防止される。なお、大入賞口開閉扉５１の内面５１Ｎのうち一方の側壁部５９寄り部分には、内面５１Ｎから段付き状に隆起した段差面８９（図１４を参照）が形成されている。段差面８９は、下辺５１Ｋに向かうに従って側壁部５９から離れるように傾斜している。

【００６７】

図７に示すように、側壁部５９のうち回動軸５２よりも後側部分には、ボス部５６が一体形成されている。ボス部５６は、側壁部５９から大入賞口開閉扉５１の外側（図７における紙面手前側）に向かって突出している。さらに、側壁部５９の上縁部５９Ｊは、大入賞口開閉扉５１の内側に向かって下るようにテーパー形状をなしている。

【００６８】

図７、図８に示すように、大入賞口開閉扉５１は、屈曲アーム５４によってソレノイド５３に連結されている。屈曲アーム５４の一端部５４Ａは、ソレノイド５３の軸心部分に備えられたシャフト５５の先端部に接続され、他端部５４Ｂは、大入賞口開閉扉５１に備えられたボス部５６に連結されている。また、屈曲アーム５４の屈曲部分には軸部５４Ｊが設けられ、屈曲アーム５４は、この軸部５４Ｊを中心として回動可能となっている。

【００６９】

例えば、ソレノイド５３が消磁され、シャフト５５が圧縮コイルバネ５７の付勢力によってソレノイド５３から突出する方向（図８における上方）に直動すると、屈曲アーム５４が軸部５４Ｊを中心にして図８における反時計回り方向に回動し、屈曲アーム５４の一端部５４Ａが下方に移動する。すると、大入賞口開閉扉５１が回動軸５２を中心として図８における時計回りに回動して、大入賞口開閉扉５１が役物装置１００のベース部１０１に平行でかつ外面５１Ｇがベース部１０１の前面と略同一面となるように起立し、大入賞口５０が閉鎖状態となる（図７の状態）。

【００７０】

また、例えば、ソレノイド５３が励磁され、シャフト５５がソレノイド５３側（図７における下方）に直動すると、屈曲アーム５４が軸部５４Ｊを中心にして図７における時計回り方向に回動し、屈曲アーム５４の一端部５４Ａが上方に移動する。すると、大入賞口開閉扉５１が、回動軸５２を中心として図７における反時計回り方向に回動して、大入賞口開閉扉５１が役物装置１００のベース部１０１より前側に倒され、ベース部１０１に対し略直角状態となることで大入賞口５０が開放状態となる（図８の状態）。

【００７１】

ところで、大入賞口開閉扉５１は、球受入部屋８０の両側壁８６，８６に形成されたストッパ突条５８，５８により、大入賞口５０の開放時に所定角度以上、前側に倒れないよ

うに規制されている。具体的には、大入賞口開閉扉５１が遊技板１１の前側に例えば、約７５°倒れると、大入賞口開閉扉５１の側壁部５９の下端部分が前記ストッパ突条５８，５８の下面に当接して、大入賞口開閉扉５１はそれ以上回動できなくなる（図３の状態）。このとき、大入賞口開閉扉５１の内面５１Ｎが約１５°の角度で遊技板１１（大入賞口５０）に向かって下るように傾斜する（図６を参照）。これにより、大入賞口開閉扉５１に受け止められた遊技球は、大入賞口開閉扉５１の内面５１Ｎの傾斜によってスムーズに大入賞口５０に案内される。なお、大入賞口開閉扉５１が遊技板１１の前面側へ約７５°倒れたときには、大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊと、障害壁１０４の前面１０４Ｚとがほぼ面一となる。そして、遊技板１１の前側に倒れた大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊと、遊技板１１の前面を覆うガラス板（図示せず）との間の隙間は、遊技球の直径よりも小さくなるので、大入賞口開閉扉５１上に落下した遊技球が、大入賞口開閉扉５１の前側（上辺５１Ｊ側）から下方に落下することが防止される。また、図３に示すように、前側に倒れた大入賞口開閉扉５１は障害壁１０４，１０４によって左右から挟まれているので、大入賞口開閉扉５１上に落下した遊技球が大入賞口開閉扉５１の側部から落下することも防止されている。従って、大入賞口開閉扉５１上に落下した遊技球は、確実に大入賞口５０に入球する。

【００７２】

さて、本実施形態のパチンコ遊技機１０に備えられた大入賞口開閉扉５１には、遊技球が通過可能な扉通過路９０が形成されている。図９に示すように、扉通過路９０は、大入賞口開閉扉５１の横幅方向（図９における左右方向）の中央部分、より詳細には、大入賞口開閉扉５１が前側に倒れたときに特別図柄始動ゲート１７を通過する鉛直線Ｅと交差する部分に形成され、大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊ側に開放しかつ下辺５１Ｋに向かって陥没するように構成されている。扉通過路９０のうち大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊ寄り部分９０Ｊの横幅は、遊技球の直径よりも大きくなっている。また、大入賞口開閉扉５１の下辺５１Ｋ寄り部分９０Ｋは、大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊから離れるように（大入賞口開閉扉５１の下辺５１Ｋに近づくように）円弧状に湾曲している。さらに、扉通過路９０の奥行き、即ち、大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊ側の開放端から扉通過路９０の最奥部９０Ｓまでの長さは、遊技球の直径よりも大きくなっている。これらにより、大入賞口開閉扉５１が前側に倒れたとき（大入賞口５０が開放状態のとき）に、大入賞口開閉扉５１の幅方向における中央の鉛直上方から鉛直落下した遊技球は、大入賞口開閉扉５１に受け止められることなく、扉通過路９０を通って、大入賞口５０の下方に落下することになる。

【００７３】

大入賞口５０のうち、大入賞口開閉扉５１が大入賞口５０を閉鎖状態としたときに、扉通過路９０と対面する位置には、本発明の「扉通過路用入球防止部」としての入球防止突部９５が形成されている。入球防止突部９５は、大入賞口５０の上辺５０Ｊのうち、横幅方向の中央位置から垂下し、大入賞口５０の高さ方向（図９における上下方向）における中間位置まで延びている。大入賞口５０が閉鎖状態のときには、大入賞口開閉扉５１の扉通過路９０の内側に入球防止突部９５が配置される（図９を参照）。このとき、扉通過路９０の周縁部と入球防止突部９５との間に形成される隙間は、何れの部分においても遊技球の直径よりも小さくなるので、遊技球は扉通過路９０を通過することが不可能となる。これにより、大入賞口５０が閉鎖状態のときに、遊技球が大入賞口５０へ入球することが確実に防止される。

【００７４】

以上が、本実施形態のパチンコ遊技機１０の構成であって、次に、上記構成からなるパチンコ遊技機１０の動作を説明する。操作ノブ２８を操作して、遊技球が遊技板１１の遊技領域Ｒ１における上方部分に弾き出されると、それら遊技球は、障害釘、風車１９、装飾枠２３等に当たって向きを変えられ、ランダムな経路を通って遊技領域Ｒ１の下方に向かう。

【００７５】

遊技領域Ｒ１を流下する遊技球が、普通図柄始動ゲート１８を通過した場合には、装飾枠２３に備えられた普通図柄表示部２４において普通図柄２４Ａ，２４Ｂが変動表示を開始する。そして、所定時間経過後に、普通図柄２４Ａ，２４Ｂが、奇数のぞろ目で停止すると、「小当たり遊技」が開始され、始動口開閉扉４１が前側に倒れて、特別図柄始動入賞口４０が開放される。

【００７６】

また、特別図柄始動ゲート１７又は特別図柄始動入賞口４０に遊技球が入賞（通過又は入球）した場合には、表示器３４において特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃが変動表示を開始する。そして、所定時間経過後に、各特別図柄１３Ａ，１３Ｂ，１３Ｃが、例えば、ぞろ目で停止すると、「大当たり遊技」が開始され、各表示装置２０６Ａ，２０６Ｂにおいて大当たり演出表示が行われると共に、大入賞口５０が開放され、多くの遊技球が大入賞口５０に入賞可能となる。

【００７７】

ここで、遊技板１１の前面のうち、役物装置１００上を流下する遊技球の流下経路について説明する。例えば、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０が共に閉鎖状態のときには、以下のようである。図１０に示すように、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球は、障害釘等により落下方向を変えられることなく特別図柄始動入賞口４０に向かって鉛直落下する。ところが、特別図柄始動入賞口４０は閉鎖状態（始動口開閉扉４１が起立状態）なので、遊技球は特別図柄始動入賞口４０（始動口開閉扉４１）の幅方向における中央前側を通って、特別図柄始動入賞口４０の下方に落下する。

【００７８】

特別図柄始動入賞口４０の前面を通過した遊技球は、障害釘等により落下方向を変えられることなく、大入賞口５０に向かって鉛直落下する。ところが、大入賞口５０は閉鎖状態（大入賞口開閉扉５１が起立状態）なので、遊技球は大入賞口５０（大入賞口開閉扉５１）の幅方向における中央前側を通って、大入賞口５０の下方に落下し、アウト口１６に入球する（図１０における符号ａの矢印を参照）。

【００７９】

なお、特別図柄始動ゲート１７を通過せずに流下した遊技球も同様に、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０の何れにも入球することなく落下する（図１０の符号ｂの矢印を参照）。

【００８０】

次に、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０のうち、特別図柄始動入賞口４０のみが開放状態のときには、以下のようである。図１１に示すように、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球は鉛直落下し、遊技板１１の前側に倒れた始動口開閉扉４１上に落下する。始動口開閉扉４１に落下した遊技球は、始動口開閉扉４１の傾斜によって特別図柄始動入賞口４０に入球する（図１１における符号ａの矢印を参照）。つまり、特別図柄始動入賞口４０が開放状態のときには、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球が特別図柄始動入賞口４０に入球するので、大入賞口５０に向かって落下することはない。なお、特別図柄始動ゲート１７を通過せずに、斜め上方から特別図柄始動入賞口４０に向かって流下した遊技球も同様に、始動口開閉扉４１に受け止められて特別図柄始動入賞口４０に入球する。

【００８１】

特別図柄始動ゲート１７を通過せずに大入賞口５０に向かって流下した遊技球、例えば、大入賞口５０の斜め上方から障害壁１０３，１０４の間を通過した遊技球（図１１における符号ｂの矢印を参照）は、大入賞口５０に入球することなく大入賞口開閉扉５１の前側を通過してアウト口１６に入球する。

【００８２】

次に、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０が共に開放状態のときには、以下のようである。図１２に示すように、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球は鉛直落下し、遊技板１１の前側に倒れた始動口開閉扉４１に受け止められて特別図柄始動入賞口４０

に入球する（図１２にける符号ａの矢印を参照）。即ち、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球が大入賞口５０に向かって落下することはない。

【００８３】

特別図柄始動ゲート１７を通過せずに大入賞口５０に向かって流下した遊技球（例えば、障害壁１０３，１０４の間を通過した遊技球）は、遊技板１１の前側に倒れた大入賞口開閉扉５１のうち、扉通過路９０を挟んだ左右両端部寄り部分に落下する。大入賞口開閉扉５１に受け止められた遊技球は、大入賞口開閉扉５１の傾斜に案内されて大入賞口５０に入球する（図１２における符号ｂの矢印を参照）。つまり、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球は、始動口開閉扉４１に受け止められるので、大入賞口５０に入球することはないが、特別図柄始動ゲート１７を通過せずに（大入賞口５０の斜め上方から）大入賞口５０に向かって流下した遊技球は、大入賞口５０に入球可能となる。

【００８４】

さて、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０のうち、大入賞口５０のみが開放状態のときには、以下のようである。図１３に示すように、特別図柄始動ゲート１７を通過せずに大入賞口５０に向かって流下した遊技球（例えば、障害壁１０３，１０４の間を通過した遊技球）は、大入賞口開閉扉５１の左右両端部寄り部分に落下し、大入賞口開閉扉５１に案内されて大入賞口５０に入球する（図１３における符号ｂの矢印を参照）。

【００８５】

これに対し、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球は特別図柄始動入賞口４０に向けて鉛直落下する。しかし、特別図柄始動入賞口４０は閉鎖状態なので、遊技球は始動口開閉扉４１に受け止められることなく特別図柄始動入賞口４０の前側を通過して、そのまま鉛直落下する。

【００８６】

特別図柄始動入賞口４０を通過した遊技球は、大入賞口５０の幅方向における中央の鉛直上方から、遊技板１１の前側に倒れた大入賞口開閉扉５１に向かって鉛直落下する。このとき、大入賞口開閉扉５１に形成された扉通過路９０が、特別図柄始動ゲート１７の上下の開口１７Ｊ，１７Ｋと鉛直線Ｅ上で対向するので（図３及び図１４を参照）、遊技球は扉通過路９０を通過して、大入賞口５０の下方に落下する（図１３における符号ａの矢印を参照）。即ち、大入賞口５０が開放状態のときに、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球が大入賞口開閉扉５１に受け止められることはなく、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球が大入賞口５０に入球することが防止される。

【００８７】

即ち、大入賞口５０が開放状態のときに、特別図柄始動ゲート１７を通過しなかった遊技球を大入賞口５０に入球可能としつつ、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球が大入賞口５０に入球することを回避することができる。

【００８８】

ところで、遊技球が通過するゲート（例えば、特別図柄始動ゲート１７）を大入賞口５０の真上位置に配置しかつゲートを通過した遊技球が大入賞口５０に入球可能とした遊技機では、障害釘等の調節により遊技球がゲートを通過し易くなった場合に、以下のような問題が生じる。

【００８９】

即ち、障害釘により多くの遊技球がゲートに案内されることで、複数の遊技球が連続してゲートを通過することがある。すると、大入賞口５０に向かって一度に多くの遊技球が落下し、例えば、大入賞口開閉扉５１上に複数の遊技球がほぼ同じタイミングで落下する。ここで、上述したように、遊技球が大入賞口５０に入球してから遊技球センサ８５に検出されるまでの間には、若干の時間差があるので、例えば、大入賞口５０の閉鎖条件の１つである所定個数（９個）目の遊技球が遊技球センサ８５にて検出された時点で、すでに別の遊技球が大入賞口開閉扉５１や球受入部屋８０に転入している状態が起こり得る。この場合、１回のラウンド中に、所定個数（９個）よりも多くの数の遊技球が入球することになる。

【００９０】
仮に、「大当たり遊技」の各ラウンド（全１５ラウンド）において、所定個数よりも１個余分に入球した場合、遊技店では、２２５個（１５個×１５ラウンド）の賞球を過剰に払い出すことになり、賞球１個を２．５円で換金したとすると、１回の「大当たり遊技」につき、遊技店は「５６２円」余分に支払うことになる。さらに、パチンコ遊技機の１日当たりの「大当たり遊技」実行回数を２０回と仮定すると、遊技店は、パチンコ遊技機１台当たり「１１２４０円」余分に支払うことになる。さらに、遊技店に備えた５００台のパチンコ遊技機で上記したような現象が起こった場合には、遊技店は１日に「５６２万円」余分に支払うことになり、大きな損害となる。
【００９１】
しかしながら、本実施形態のパチンコ遊技機１０によれば、特別図柄始動ゲート１７を通過して鉛直落下した遊技球は、大入賞口開閉扉５１に形成された扉通過路９０を通過するので、大入賞口５０に入球することはない。これにより、特別図柄始動ゲート１７を通過しかつ大入賞口５０に入球する遊技球をなくすことができ、大入賞口５０への遊技球の入球を従来の遊技機よりも抑えることができる。
【００９２】
そして、障害釘等の調節により特別図柄始動ゲート１７を遊技球が通過し易い構成としても、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球が大入賞口５０に入ることが防止されるので、賞球が過剰に払い出されることが防止される。従って、特別図柄始動ゲート１７を通過させ易くして遊技の趣向性を向上させつつ、遊技店の損害が防止できる。
【００９３】
［第２実施形態］
この第２実施形態は、大入賞口及び大入賞口開閉扉の形状を上記第１実施形態とは異なる形状としたものである。その他の構成については上記第１実施形態と同じであるため、同じ構成については、同一符号を付し、重複する説明は省略する。
【００９４】
図１６の（Ａ）に示すように、本実施形態のパチンコ遊技機では、大入賞口５０のうち幅方向（図１６の（Ａ）における左右方向）の中央部分に、大入賞口５０の上辺と下辺とを繋いだ仕切板２００が備えられている。仕切板２００は、縦長の矩形状をなし、横幅が遊技球の直径とほぼ同じとなっている。また、仕切板２００の前面は、ベース部１０１の前面と面一となっている。この仕切板２００により、大入賞口５０は、特別図柄始動ゲート１７を通過する鉛直線Ｅを挟んで左側開口５０Ｌと右側開口５０Ｒとに２分割されている。左側開口５０Ｌと右側開口５０Ｒとは共に矩形状をなしている。また、大入賞口５０は左側開口５０Ｌと右側開口５０Ｒとに２分割されているが、大入賞口５０よりも奥側部分（球受入部屋８０内）は繋がっている。
【００９５】
大入賞口５０を開閉する大入賞口開閉扉１５１は以下のようである。図１５に示すように、大入賞口開閉扉１５１の幅方向（図１５の左右方向）の中央部には、遊技球の直径よりも大きい横幅の矩形切欠き１５２が形成されている（図１６の（Ｂ）を参照）。矩形切欠き１５２は、大入賞口開閉扉１５１の上辺１５１Ｊ側に開放しかつ、下辺１５１Ｋの近傍まで延びている。矩形切欠き１５２よりも左側部分には大入賞口５０の左側開口５０Ｌと略同一形状の左側構成部１５１Ｌが備えられ、矩形切欠き１５２よりも右側部分には右側開口５０Ｒと略同一形状の右側構成部１５１Ｒが備えられている。これら、左側構成部１５１Ｌと右側構成部１５１Ｒは大入賞口開閉扉１５１の下辺１５１Ｋにて繋がっている。
【００９６】
大入賞口開閉扉１５１は、下辺１５０Ｋを回動軸５２によって軸支されている。そして、大入賞口開閉扉１５１の左側構成部１５１Ｌと右側構成部１５１Ｒとが遊技板１１面に直交する面内で一体となって回動する。即ち、大入賞口５０の左側開口５０Ｌと右側開口５０Ｒとが同時に開放状態又は閉鎖状態とされる。

【００９７】
特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０のうち、大入賞口５０のみが開放状態とされた場合、遊技球は役物装置１００の前側を以下のようにして流下する。
【００９８】
図１６の（Ａ）に示すように、特別図柄始動ゲート１７を通過せずに大入賞口１５０に向かって流下した遊技球（例えば、大入賞口５０の斜め上方から障害壁１０３，１０４の間を通過した遊技球）のうちのいくつかは、大入賞口開閉扉１５１の左側構成部１５１Ｌ又は右側構成部１５１Ｒに受け止められて、大入賞口１５０に入球する（図１６の（Ａ）における符号ｂの矢印を参照）。
【００９９】
一方、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球は、始動口開閉扉４１に受け止められることなく特別図柄始動入賞口４０の前側を通過して、そのまま鉛直落下する。
【０１００】
特別図柄始動入賞口４０を通過した遊技球は、大入賞口５０の幅方向における中央の鉛直上方から大入賞口開閉扉１５１に向かって鉛直落下する。ところが、大入賞口開閉扉１５１の幅方向における中央部分、即ち、大入賞口開閉扉５１の左側構成部１５１Ｌと右側構成部１５１Ｒとの間には、遊技球の直径よりも横幅が大きい矩形切欠き１５２が形成されているので、遊技球は、この矩形切欠き１５２の内側を通過して大入賞口５０の下方に落下する（図１６の（Ａ）における符号ａの矢印を参照）。従って、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球が大入賞口開閉扉１５１（詳細には、左側構成部１５１Ｌ又は右側構成部１５１Ｒ）に受け止められて大入賞口５０（詳細には、左側開口５０Ｌ又は右側開口５０Ｒ）に入球することはない。
【０１０１】
さらに、大入賞口１５０のうち、特別図柄始動ゲート１７から鉛直落下した遊技球の落下経路と重なる部分、即ち、大入賞口１５０の幅方向における中央部分は、仕切板２００によって覆われている。これにより、特別図柄始動ゲート１７から鉛直落下した遊技球が大入賞口１５０に直接（大入賞口開閉扉１５１に案内されずに）入球することも防止される。しかも、大入賞口５０が閉鎖状態にされた場合には、大入賞口開閉扉１５１の矩形切欠き１５２に対応する部分が仕切板２００によって塞がれるので、大入賞口５０が閉鎖状態のときに、遊技球が矩形切欠き１５２を通過して大入賞口５０に入球することが防止される。なお、仕切板２００と矩形切欠き１５２とで、本発明の「中央通過路」が構成されている。このように、本実施形態の構成によっても、上記第１実施形態と同等の効果を奏することができる。
【０１０２】
［第３実施形態］
本実施形態のパチンコ遊技機１０には、遊技板１１の前後方向に出没動作する遮断板３０１が備えられている。また、大入賞口開閉扉３５１は、大入賞口５０と略同一形状の矩形帯板形状をなす。即ち、始動口開閉扉４１と同様に、閉鎖状態時に大入賞口開閉扉３５１が大入賞口５０の全体を覆うように構成されている。その他の構成は、上記第１実施形態と同一である。
【０１０３】
図１７に示すように、役物装置１００のベース部１０１のうち、特別図柄始動ゲート１７と特別図柄始動入賞口４０との中間部分には、扁平横長のスリット３００が貫通形成されている。詳細には、スリット３００は、ベース部１０１のうち、大入賞口５０の幅方向における中央の鉛直上方で特別図柄始動ゲート１７の下端開口１７Ｋから遊技球１つ分（例えば約１１ｍｍ）以上間隔を空けた位置に形成されている。スリット３００は、特別図柄始動入賞口４０とほぼ同じ横幅となっている。そして、遊技板１１の裏側から、スリット３００に遮断板３０１が挿通されている。
【０１０４】
遮断板３０１は、特別図柄始動入賞口４０とほぼ同じ横幅を有し、上面３０１Ｊが、幅

方向の中央部から側方に向って下るように傾斜している。遮断板３０１は、遊技板１１の裏側にて、例えば、図示しない遮断板用ソレノイドに連結されている。そして、大入賞口開閉扉５１が前側に倒れ、大入賞口５０が開放状態にされたときに、遮断板用ソレノイドが励磁され、遮断板３０１はスリット３００を通って遊技板１１の前方に突出する（図１７の（Ｂ）の状態）。また、大入賞口開閉扉５１が起立状態となり、大入賞口５０が閉鎖状態にされると、遮断板用ソレノイドが消磁され、遮断板３０１は遊技板１１の後方に退避する。なお、遮断板３０１が遊技板１１の後方に退避したときには、遮断板３０１の前端部がベース部１０１の前面よりも後側（図１７の（Ｂ）における左側）位置となる。なお、遮断板３０１と遮断板用ソレノイドとによって本発明の「遮断駆動部」が構成されている。

【０１０５】

さて、特別図柄始動入賞口４０及び大入賞口５０のうち、大入賞口５０のみが開放状態とされた場合、遊技球は役物装置１００の前側を以下のようにして流下する。

【０１０６】

図１７に示すように、特別図柄始動ゲート１７を通過せずに大入賞口５０に向かって流下した遊技球（例えば、大入賞口５０の斜め上方から障害壁１０３，１０４の間を通過した遊技球）のうちのいくつかは、大入賞口開閉扉３５１に落下して、大入賞口５０に入球する（図１７における符号ｂの矢印を参照）。

【０１０７】

これに対し、特別図柄始動ゲート１７を通過して鉛直落下した遊技球は、遮断板３０１の上面３０１Ｊの中央部分に落下する。そして、遮断板３０１の上面３００Ｊの傾斜によって側方に転がり、遮断板３０１の側縁部から落下する。遮断板３０１から落下した遊技球の多くは、障害壁１３０，１０４よりも外側を通って流下する（図１７における符号ａの矢印を参照）。これにより、遮断板３０１が設けられていないパチンコ遊技機に比較して、特別図柄始動ゲート１７を通過しかつ大入賞口５０に入球する遊技球の数を減らすことが可能となる。このように本実施形態によっても、上記第１実施形態及び第２実施形態と同等の効果を奏することが可能となる。

【０１０８】

また、大入賞口５０が閉鎖状態のときには、遮断板３０１は役物装置１００のベース部１０１の後方に退避するので、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球は、遮断板３０１に接触することなく大入賞口５０の前側を鉛直落下する。このように、特別図柄始動ゲート１７を通過した遊技球の流下経路を大入賞口５０が開放状態のときと閉鎖状態のときとで異ならせることができる。

【０１０９】

［第４実施形態］

本実施形態は、大入賞口開閉扉の形状を上記第１実施形態と異ならせたものである。以下、第１実施形態と異なる構成についてのみ説明する。図１８に示すように、本実施形態の大入賞口開閉扉４５１には、落下防止突部４００が形成されている。落下防止突部４００は、扉通過路９０の周縁部に沿って設けられ、大入賞口開閉扉４５１の内面５１Ｎから直角に起立している。これにより、大入賞口開閉扉４５１上に落下した遊技球が、扉通過路９０から落下することが防止される。

【０１１０】

［第５実施形態］

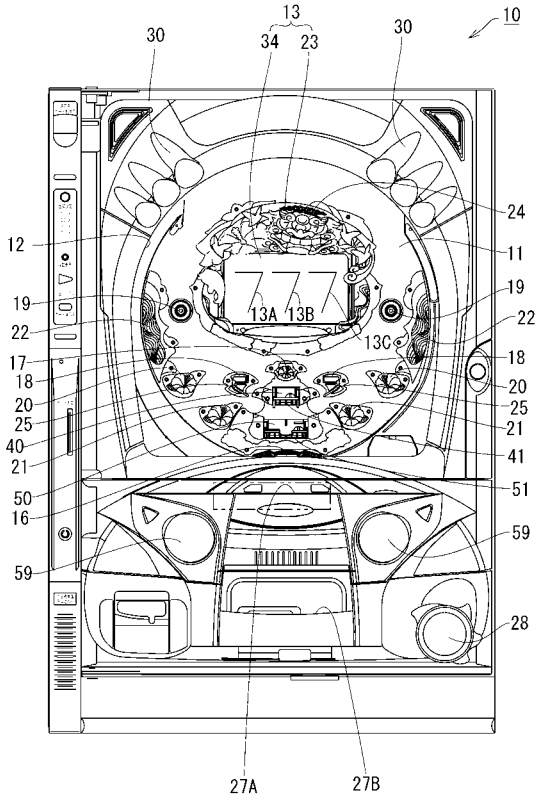
この第５実施形態は、「扉通過路用入球防止部」の構成を上記第１実施形態とは異なる構成としたものである。以下、第１実施形態と異なる構成についてのみ説明する。

図１９に示すように、大入賞口開閉扉５１の幅方向の中央部分には矩形帯板状の庇部材５００が備えられている。詳細には、庇部材５００は大入賞口開閉扉５１の外面５１Ｇから直角に起立し、扉通過路９０のうち、大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊ側の開放部分を跨ぐように配置されている。そして、大入賞口５０が閉鎖状態のとき（大入賞口開閉扉５１が起立状態のとき）には、庇部材５００が扉通過路９０の上方を覆いかつ役物装置１０

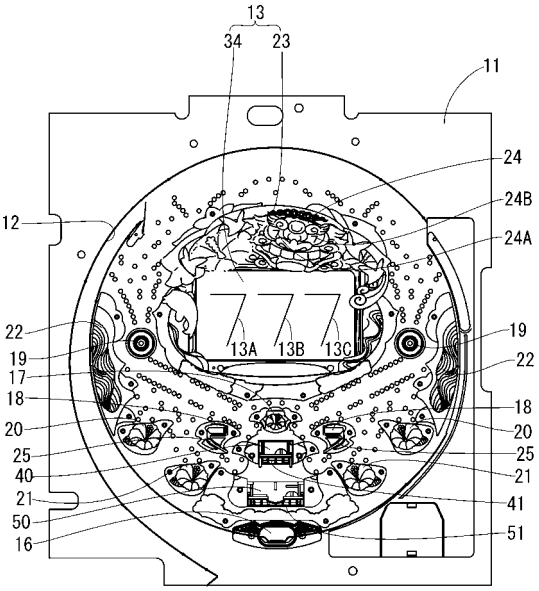
０のベース部１０１の前面から突出する。
【０１１１】
例えば、各入賞口４０，５０が共に閉鎖状態のときに特別図柄始動ゲート１７から鉛直落下した遊技球は、庇部材５００に接触することで、扉通過路９０の前方を通過することなく扉通過路９０の側方を流下する。これにより、大入賞口５０が閉鎖状態のときに、遊技球が扉通過路９０を通って大入賞口５０に遊技球が入球することが防止される。また、特別図柄始動ゲート１７から鉛直落下した遊技球に限らず、大入賞口開閉扉５１（大入賞口５０）の横幅方向における中央部分に向かって落下した遊技球は、庇部材５００に接触することで流下方向が変化し、扉通過路９０から大入賞口５０に入球することが不可能となる。
【０１１２】
［他の実施形態］
本発明は、前記実施形態に限定されるものではなく、例えば、以下に説明するような実施形態も本発明の技術的範囲に含まれ、さらに、下記以外にも要旨を逸脱しない範囲内で種々変更して実施することができる。
（１）前記第１～第５実施形態においては、遊技機の一例としてパチンコ遊技機を例示したが、本発明はこれに限られず、例えばアレンジボール等に本発明を適用してもよい。
【０１１３】
（２）前記第１実施形態では、扉通過路９０を大入賞口開閉扉５１の上辺５１Ｊ側に開放した構成としていたが、上辺５１Ｊ側部分は繋がっていてもよい。具体的には、大入賞口開閉扉５１のうち、特別図柄始動ゲート１７を通過する鉛直線Ｅと交差する部分に遊技球が通過可能な円形の貫通口を形成してもよい。なお、貫通口の形状は「円形」に限るものではなく、例えば、三角形等の多角形でもよい。
【０１１４】
（３）上記第１実施形態では、大入賞口開閉扉５１に扉通過路９０を形成していたが始動口開閉扉４１に同様な扉通過路を形成してもよい。
【０１１５】
（４）上記第２実施形態では、大入賞口５０に仕切板２００を設け、大入賞口開閉扉１５１に矩形切欠き１５２を形成していたが、特別図柄始動入賞口４０に同様な仕切板を設け、始動口開閉扉４１に同様な矩形切欠きを形成してもよい。
【０１１６】
（５）上記第２実施形態では、仕切板２００の前面を平坦面としていたが、図２０に示すように、仕切板２００の前面の両側部に、前方に起立したガイド突条２１０を設けてもよい。このようにすれば、特別図柄始動ゲート１７から鉛直落下した遊技球を、確実に仕切板２００の前側を通過させることができる。
【図面の簡単な説明】
【０１１７】
【図１】本発明の第１実施形態に係るパチンコ遊技機の正面図
【図２】遊技板の正面図
【図３】役物装置の正面図
【図４】役物装置の平面図
【図５】各入賞口が閉鎖状態のときの役物装置の側断面図
【図６】各入賞口が開放状態のときの役物装置の側断面図
【図７】各入賞口が閉鎖状態のときの役物装置の側断面図
【図８】各入賞口が開放状態のときの役物装置の側断面図
【図９】大入賞口が閉鎖状態のときの役物装置の正面図
【図１０】各入賞口が共に閉鎖状態のときの役物装置の（Ａ）正面図（Ｂ）側断面図
【図１１】特別図柄始動入賞口のみが開放状態のときの役物装置の（Ａ）正面図（Ｂ）側断面図
【図１２】各入賞口が共に開放状態のときの役物装置の（Ａ）正面図（Ｂ）側断面図

【図１３】大入賞口のみが開放状態のときの役物装置の（Ａ）正面図（Ｂ）側断面図
【図１４】大入賞口のみが開放状態のときの役物装置の平面図
【図１５】第２実施形態に係る役物装置の正面図
【図１６】大入賞口のみが開放状態のときの役物装置の（Ａ）正面図（Ｂ）側断面図
【図１７】第３実施形態に係る役物装置の（Ａ）正面図（Ｂ）側断面図
【図１８】第４実施形態に係る大入賞口開閉扉の斜視図
【図１９】第５実施形態に係る大入賞口開閉扉の斜視図
【図２０】他の実施形態（５）に係る大入賞口及び遮蔽板の斜視図
【図２１】従来のパチンコ遊技機に備えられた遊技板の正面図
【符号の説明】
【０１１８】
１０　パチンコ遊技機
１１　遊技板
１７　特別図柄始動ゲート（ゲート）
５０　大入賞口（開閉入球口）
５１，１５１，３５１，４５１　大入賞口開閉扉（駆動扉）
５３　ソレノイド（扉駆動手段）
６０，６０　側壁部（脚部）
６１　装飾板（連結部材）
８５　遊技球センサ（検出手段）
９０　扉通過路（入球抑制手段）
９５　入球防止突部（扉通過路用入球防止部）
１００　役物装置
１５２　矩形切欠き（中央通過路、入球抑制手段）
２００　仕切板（中央通過路、入球抑制手段）
３０１　遮断板（遮断駆動部、入球抑制手段）
５００　庇部材（庇部）

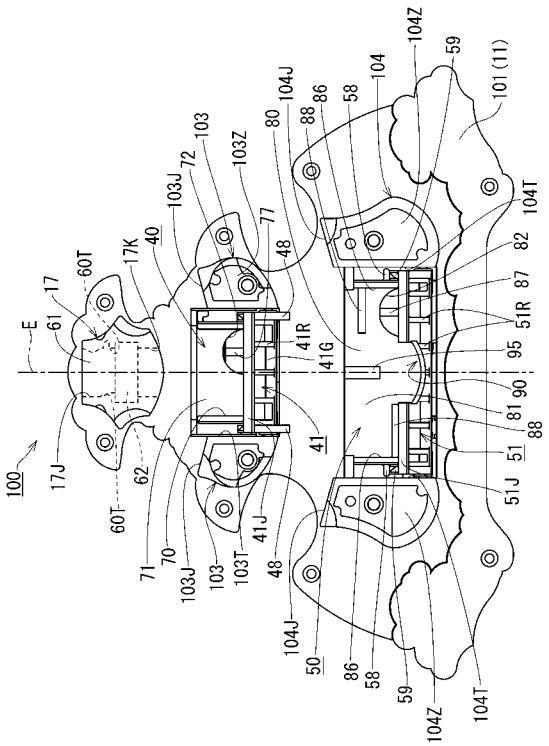
【図１】


10
13
34
23
30
30
24
11
12
19
22
17
18
20
25
40
21
50
16
59
13A
13B
13C
19
22
18
20
25
21
41
51
59
28
27A
27B

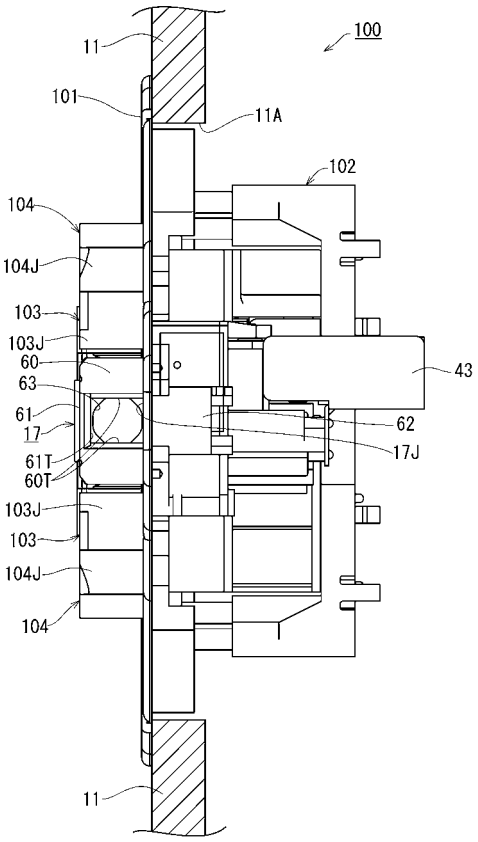
【図２】


13
34
23
11
24
24B
24A
12
22
19
17
18
20
25
40
21
50
16
13A
13B
13C
19
22
18
20
25
21
41
51

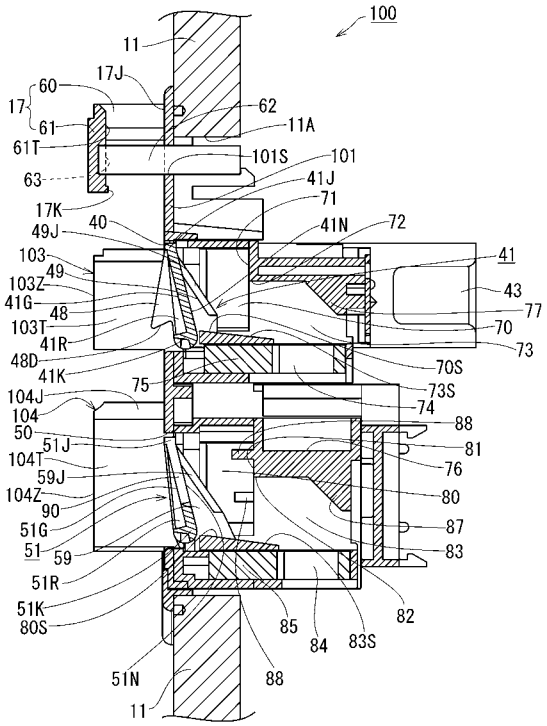
【図３】


100
E
17
61
60T
17K
40
103J
72
103
103Z
77
48
80
104J
88
86
58
104
104Z
59
101(11)
104T
82
87
51R
95
90
81
88
51
51J
41R
41G
41
17J
62
60T
71
70
103J
103
103T
41J
48
104J
50
86
58
59
104Z
104T

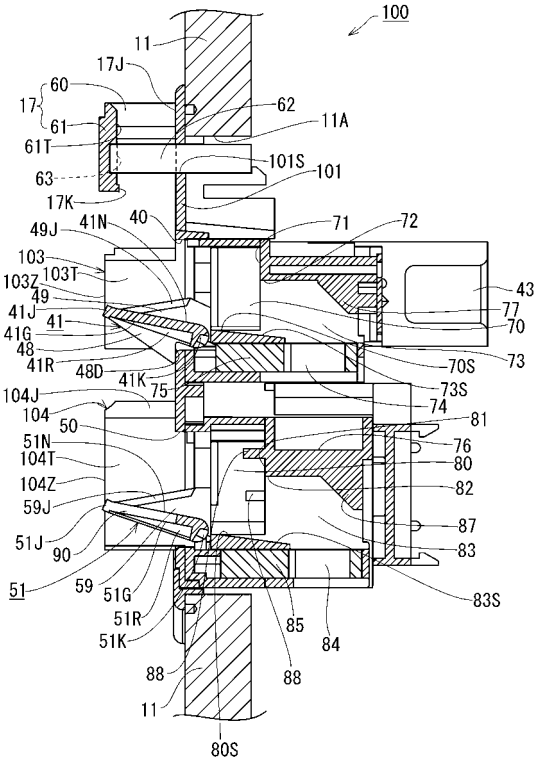
【図４】


100
11
101
11A
102
104
104J
103
103J
60
63
61
17
61T
60T
103J
103
104J
104
43
62
17J
11

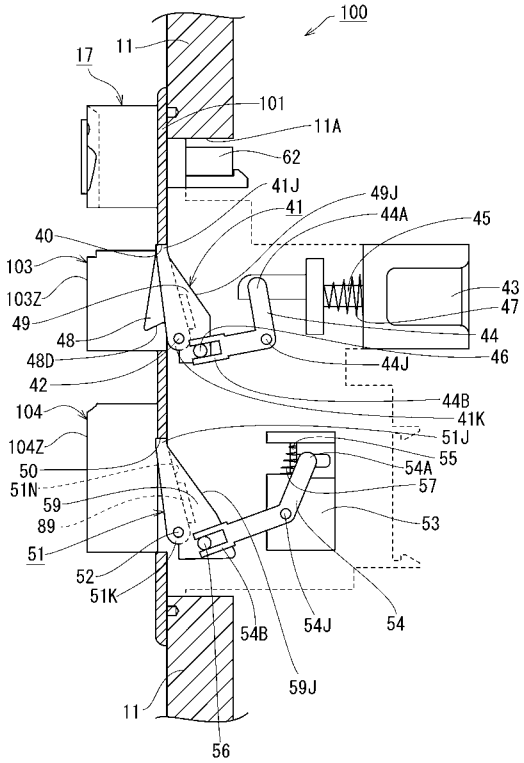
【図５】


100
11
17J
17
60
61
61T
63
17K
49J
103
103Z
41G
103T
41R
48D
41K
104J
104
50
104T
59J
104Z
90
51G
51
59
51R
51K
80S
51N
11
62
11A
101S
101
41J
71
41N
72
40
49
48
41
43
77
70
73
70S
73S
74
88
81
76
80
87
83
51J
85
84
83S
82
88

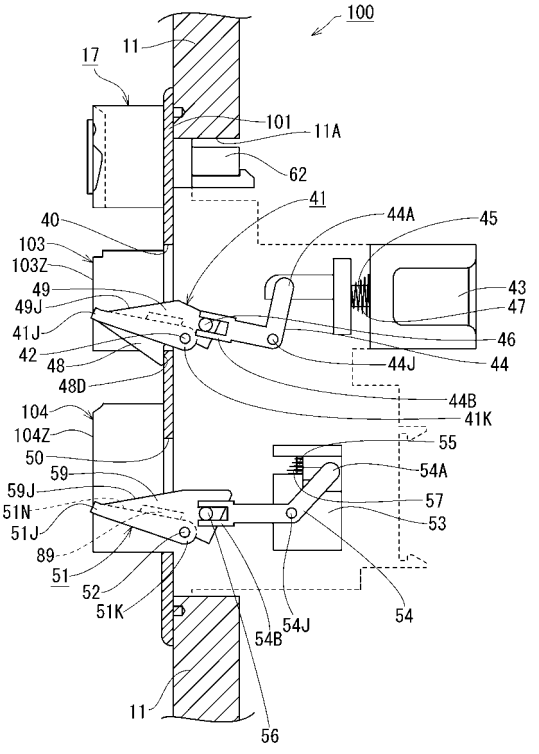
【図６】


100
11
17J
17
60
61
61T
63
17K
49J
103
103Z
41G
103T
41R
48D
41K
104J
104
50
51N
104T
104Z
59J
51J
90
51
59
51G
51R
51K
80S
11
62
11A
101S
101
41N
40
71
72
49
48
41
43
77
70
73
70S
73S
74
81
76
80
82
87
83
83S
85
84
88
88

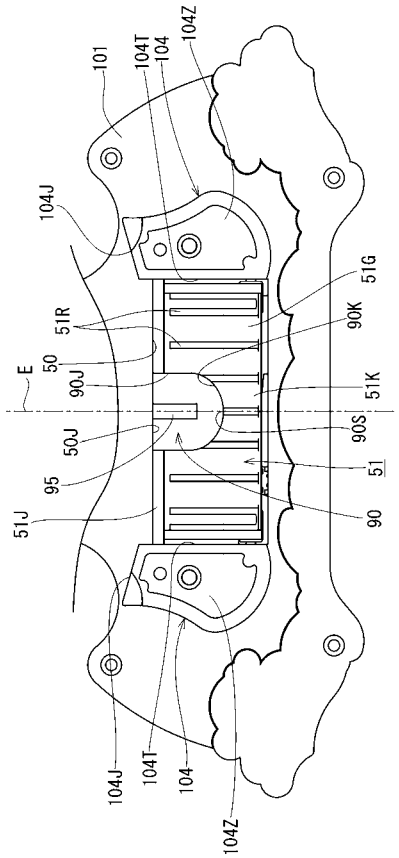
【図７】


100
17
11
101
11A
62
41J
41
49J
44A
45
40
103
103Z
49
48
48D
42
104
104Z
50
51N
59
89
51
52
51K
54B
54J
54
59J
11
56
43
47
44
46
44J
44B
41K
51J
55
54A
57
53

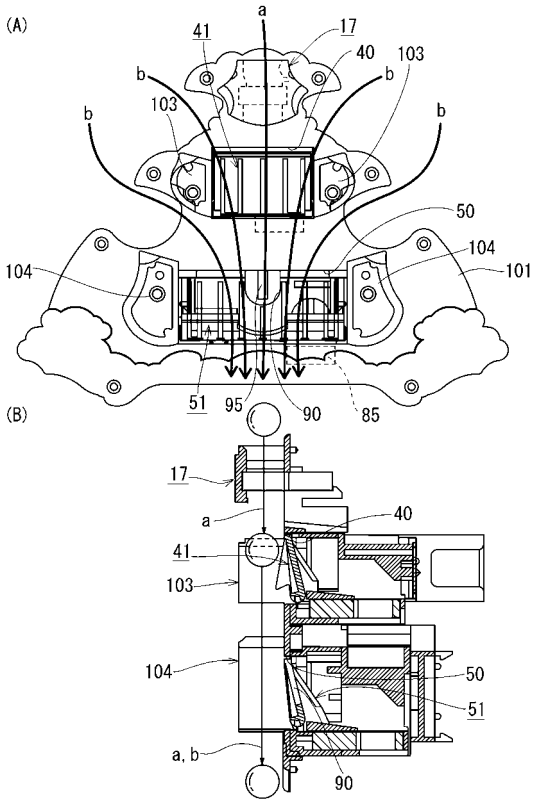
【図８】


100
17
11
101
11A
62
41
44A
45
40
103
103Z
49
49J
41J
42
48
48D
104
104Z
50
59
59J
51N
51J
89
51
52
51K
54B
54J
54
11
56
43
47
46
44
44J
44B
41K
55
54A
57
53

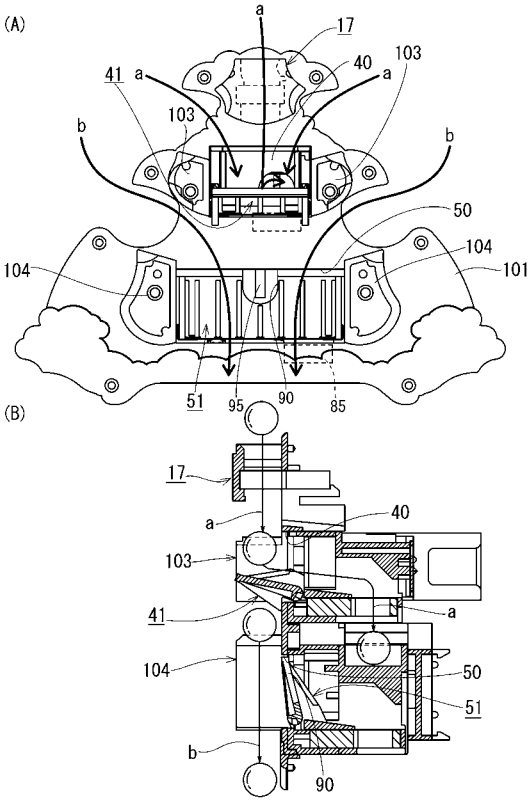
【図９】



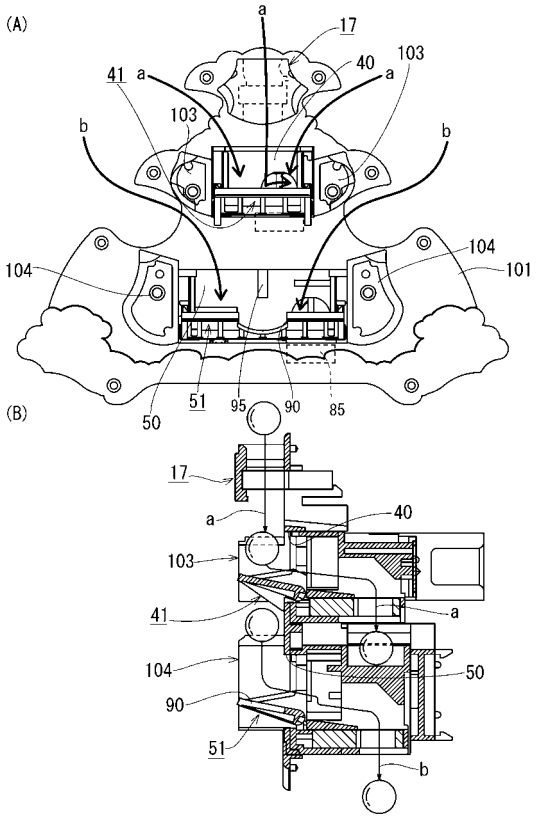
【図１０】



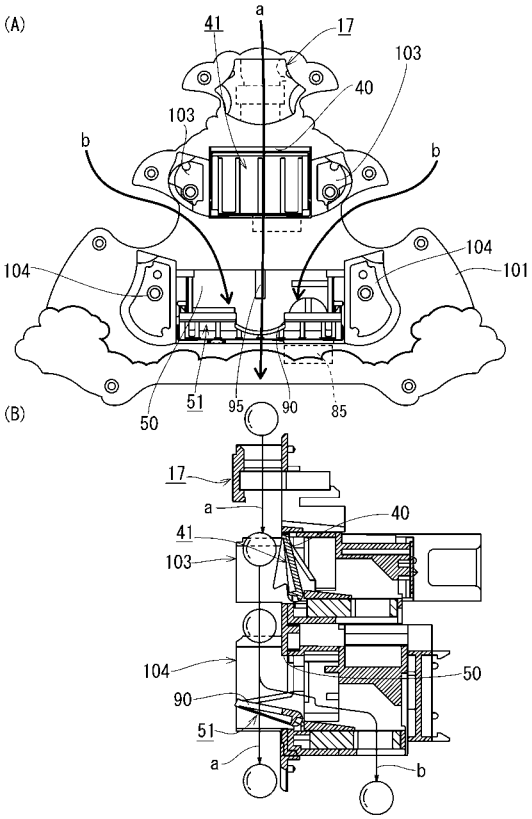
【図１１】



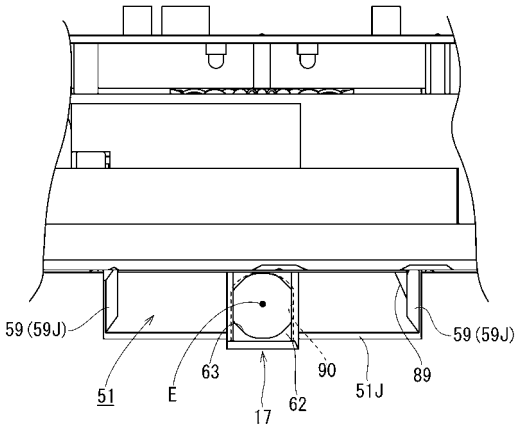
【図１２】



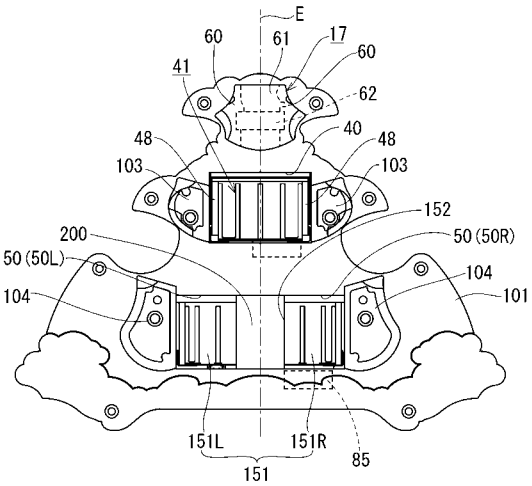
【図１３】



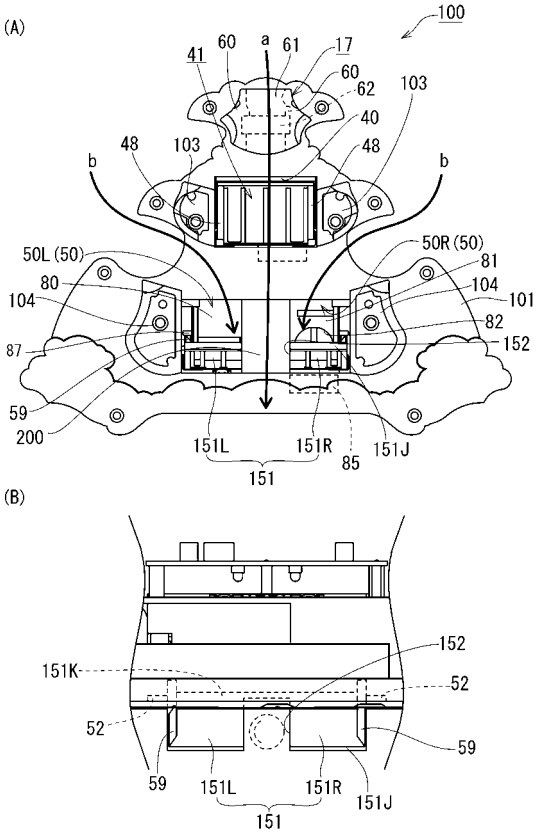
【図１４】



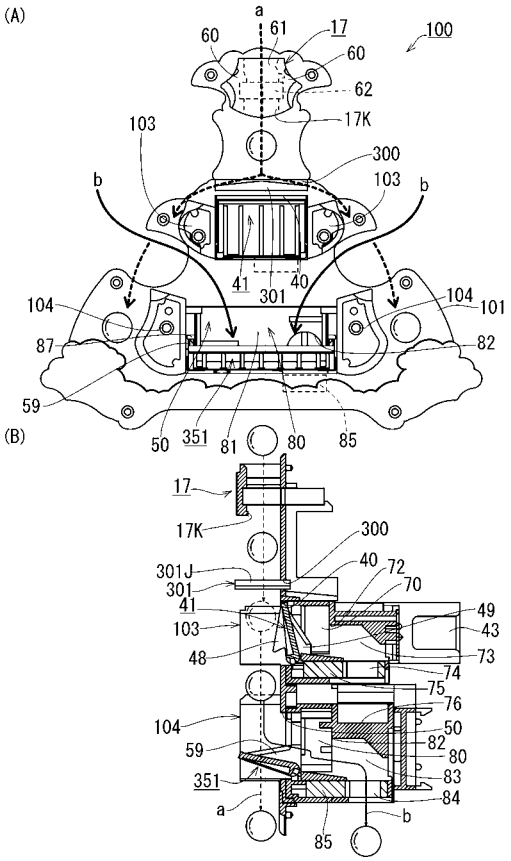
【図１５】



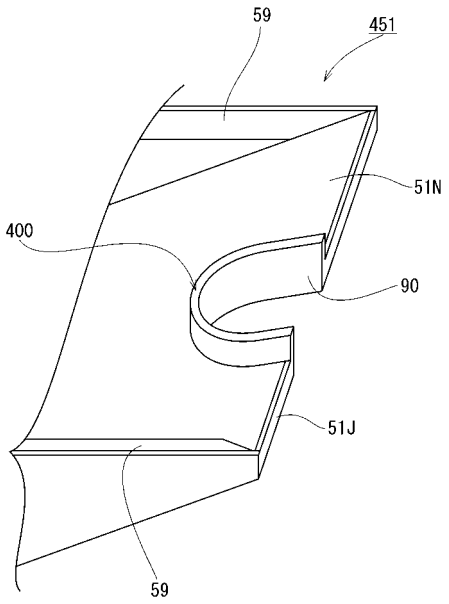
【図１６】



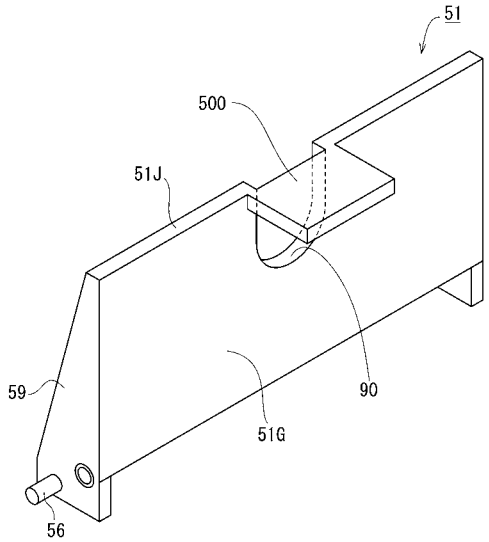
【図１７】



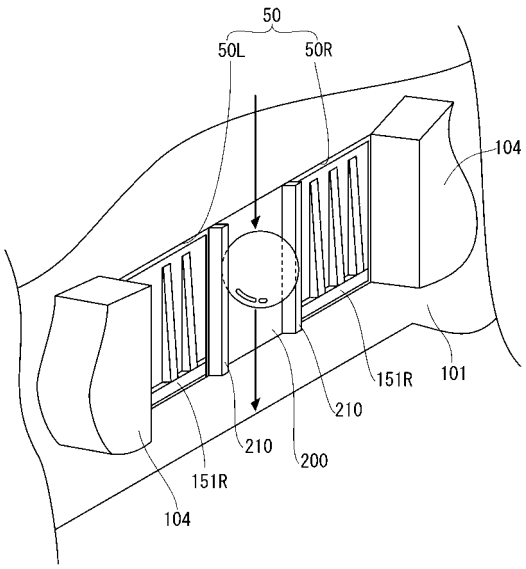
【図１８】



【図１９】



【図２０】



【図２１】

